

交流活動を工夫し活用する力を育成する取組の実践例

～B問題で正答率が高い中学校の例～

学校紹介

学校種	中学校（昭和62年開校）		
校区内小学校	3校		
学級数 生徒数	計23学級 （約800名）	第1学年 7学級（約270名） 第2学年 8学級（約280名） 第3学年 7学級（約250名） 特別支援学級 学級（4名）	
教職員数	52名	校長・教頭	各1名
		教諭	30名（うち、養護教諭1名）
		事務職員	2名
		校務員・用務員	2名
		講師	11名（うち、常勤9名）
		ALT	1名
		学校図書館司書	1名
		給食管理員 SC・サポートT	1名 各1名

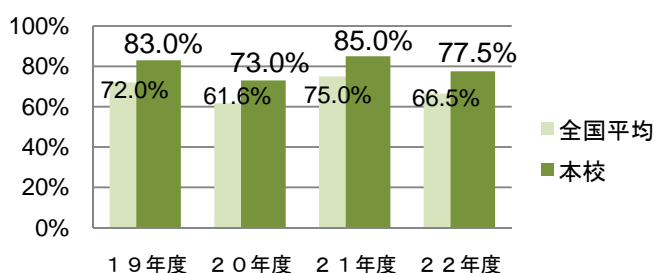
○学校の特徴

本校の学区は、地域の交通の要所である市内に位置し、校区内には大型の団地や商業施設が立ち並んでいる。市の発展に伴い、人口密度も高く、生徒数も増加傾向にある。

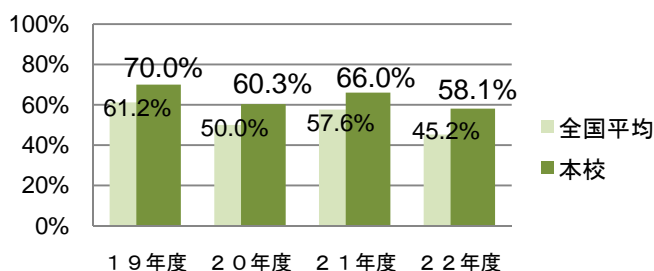
保護者の教育に対する関心は高く、協力的であり、「花壇づくり」や地域と学校を様々な行事で結びつける活動などを積極的に行っている。

全国学力・学習状況調査の結果における特徴

国語B問題に係る正答率



数学B問題に係る正答率



国語・数学ともに4年間の正答率が全国平均を上回っており、特にB問題の正答率について顕著である。

これは、各教科や領域の指導において、交流活動を工夫して設定し、知識や技能を活用する機会を十分に与えてきた成果と考えている。

また、ノートの活用や自己評価といった基本的な学習活動の工夫についても、一部の教科だけでなく、学校全体で共通理解を図り、生徒にとって日常的な取組とすることで、効果を上げている。交流活動を行う際の確かな土台としている。

授業における取組

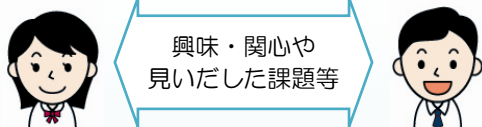
活用する力を育成する交流活動の工夫

本校では、活用する力を育成するために、互いの学びを広げたり深めたりすることができるような交流活動の工夫を行っている。交流活動では、その活動の目的などを生徒に明確に示すとともに、生活経験や学習経験、興味や関心、見方や考え方など、何を交流の対象とすべきかを十分に理解させた上で活動させている。

○交流活動の類型化

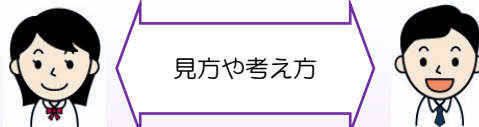
交流活動を、その目的や交流する内容により次の類型に分類し、各教科・領域の単元計画や授業計画の中に、バランスよく設定している。例えば、事象に対する興味・関心を交流したり、見いだした課題に対する認識を高めたりする「出し合う交流活動」は、その活動目的から、単元や授業の序盤に設定することが多い。このように、「各類型の目的」と、単元や授業の展開における「場面の目的」を合致させることで、適切に配置できるようにしている。

【出し合う交流活動】



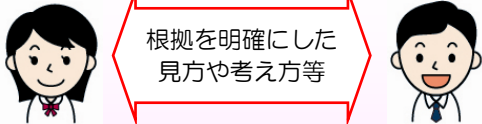
互いの興味・関心を交流したり、学習経験や生活経験を生かして見いだした課題を出し合ったりしながら、事象に対する興味・関心を高め、課題に対する認識を深める。

【比べ合う交流活動】



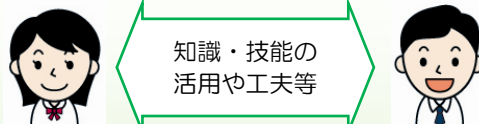
互いの事象に対する見方や課題に対する考え方を比較したり、学び方を参考にしたりしながら、法則や原理を理解し、学習の見通しを立てる。

【高め合う交流活動】



他者の見方や考え方を取り入れ、自分の考えを修正したり、強化したりしながら高め合い、それぞれの課題を解決していく。

【磨き合う交流活動】



これまでの交流活動を通して習得した知識や技能を実践的に活用したり、互いの活用や工夫を評価し合ったりしながら、活用する力を磨き合っていく。

活用する力を育成する交流活動の工夫（つづき）

〇出し合う交流活動

「出し合う交流活動」では、各自が様々なタイプの資料から必要な情報を抜き出し、ペアや小グループで情報を出し合いながら、それらが適切であるかなどについて意見交流をさせ、思考や表現を深めるための材料を豊かにさせたり、課題に対する認識を深めさせたりすることを目的としている。

【国語科 第1学年】 単元名：わかりやすく説明しよう「人物を紹介する文を書く」

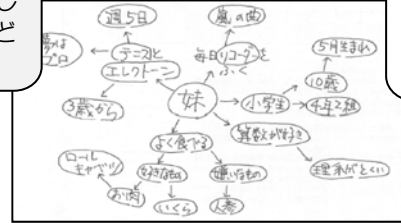
この活動は、「書くこと」の指導事項の一つである「日常生活の中から課題を決め、材料を集めながら自分の考えをまとめること」の指導に当たり、「出し合う交流」の活動として設定しているものである。頭の中のイメージ（思考や観念）を、文字や絵で視覚化することにより、自分のイメージを客観的にとらえることができ、他者に示しやすくなる。

また、この活動を通じて、紹介文を実際に書く際に盛り込む内容などを豊かにバランスよく選択することができるようになる。

- ① 中心に教員の顔写真を張った模造紙を用意し、黒板に掲示する。
- ② 全員でイメージマップを作成する。
- ③ 人物像が明確になったことを確認し、イメージマップを作成することの有効性を理解させる。

- ① 各自で友人や家族など紹介する人物を決定し、イメージマップを作成する。
- ② ペアで互いのマップを見せ合いながら、情報が適切であるか、補足すべきものはないかなどについて意見交流を行う。

長所は長所で整理してみてもうかな。



▲生徒の書いたイメージマップ

この項目はもう少し情報がほしいね。



〇比べ合う交流活動

「比べ合う交流活動」では、ペアやグループになり、互いの見方や考え方を比較したり、参考にしたりしながら、法則や原理を理解し、学習の見通しを立てることを目的としている。

【国語科 第1学年】 単元名：調べたことを正確に伝えよう

この活動は、各自の伝えたい内容やその根拠として収集した情報、自分なりに考えた文章の構成などについて比べ合って検討することで、それぞれが最終的な文章をつくる見通しを立てることを目的としている。

- ① テーマについて書きたい内容や調べた内容を、構成メモに箇条書きでまとめさせる。
- ② 文章の構成を考えながらメモを並べさせる。

- ① メモを並べた状態で、隣同士で見せ合い、文章の構成について意見交流を行わせる。
- ② 互いの構成を見たり、相手の意見を参考にしたりしながら、メモを再度並び変えさせる。

- ① 構成メモを基に、段落ごとに1枚の紙に書かせる。
- ② 原稿を仕上げた後、小グループ内で読み合わせ、再度全体の段落の並びは適切か、筋道が通った文章になっているかなどについて、付箋紙を使い意見交流を行わせる。

3	題名
	地球の歴史
	構成メモの一部
	1. 地球の歴史は、長い時間を経て形成された。
	2. 地球の歴史は、長い時間を経て形成された。
	3. 地球の歴史は、長い時間を経て形成された。

▲構成メモの一部



▲意見交流の場面

活用する力を育成する交流活動の工夫（つづき）

○高め合う交流活動

「高め合う交流活動」は、討論など、根拠を明確に示しながら意見を述べ合ったり、お互いの意見について批評したりする活動を通して、他者の意見を取り入れて自分の考えを修正するなど、互いに高め合い、課題を解決していくことを目的としている。

【社会科 第2学年】 単元名：世界の国々を調べよう（中国）

この単元では、中国について調べる中で、一人っ子政策を取り上げ詳しく学習する。単に知識を習得するだけでなく、そのメリットやデメリットについて討論を行う中で、他者の意見を柔軟に取り入れ、各自がしっかりと考えを表明したりできるように指導している。

クラス全体で自由に意見を述べ合う中で、論点を明確に理解させ、学習の見通しを立てさせる。



立論づくりとして、各自で政策のメリット、デメリットについてノートにまとめさせる。



肯定派、否定派で集め、グループでの作戦タイムを行わせる。



立論・反論を行わせる。



討論終了後に、作戦タイムで高め合った考えや、討論における最終的な判断をノートにまとめさせる。その際、根拠を明確にして記述するよう指導する。



○磨き合う交流活動

「磨き合う活動」としては、スピーチやポスターセッションなど、習得した知識や技能を実践的に活用できる活動を設定している。そして、自己評価や相互評価などを行いながら、お互いの活用する力を磨き合うことを目的としている。自己評価や相互評価の評価規準については、教員が幾つかの分かりやすい共通項目を示すが、生徒にも自分なりのスピーチを完成させるため、各自で幾つかの規準を設定させる。

【英語科 第3学年】 単元名：スピーチ（行ってみたいところ）

思考力や表現力を育成し、活用する力を磨き合う取組として、ペアによる様々なリーディング練習やスピーチを取り入れている。

教員のモデルスピーチを聞き、モデル原稿に区切りの線を入れたり、リズムについてのメモを取ったりする。

ペアにさせ、お互いのメモを見ながら、どのような点に注意してスピーチすべきかを相談させる。

教員が示した評価規準に各自の考える規準を加えさせ、相互評価用紙に記入させる。

ペアにさせ、Read and Look Upの形式でスピーチ原稿の練習を行わせる。相互評価用紙を活用させ、交互に評価規準に基づいたアドバイスをさせる。

後半のリズムに気を付けてね！



教室からの声

- ・ 構成メモの順番について、グループの中で、「並び変えたほうがいい」と「並び変える必要はない」に分かれて困ったけど、何でそう思うのかじっくり話し合ったので解決できた。
- ・ 英語のスピーチ練習では、自分がどう話すかではなくて、相手が分かりやすい読み方になるように気を付けた。

活用する力を育成する交流活動の工夫（つづき）

○授業の展開と交流活動の配置

本校では、これまでに説明した4つの交流活動を、各教科・領域の単元計画や授業計画にバランスよく設定している。「出し合う交流活動」や「比べ合う交流活動」は、その目的や交流内容から、指導計画の序盤に設定し、「高め合う交流活動」や「磨き合う交流活動」は中盤から終盤にかけて設定するようにしている。

【国語科 第3学年】 単元名：論理の展開をとらえよう「生き物として生きる」

- ① 文章を通して読み、次の点について、各自にノートにまとめさせる。
 ア この文章では、どのような語がキーワードになっているか。
 イ この文章を読んで、筆者の考えに共感した部分はどこか。それはなぜか。

- ① 小グループで、ノートを持ち寄って、各自が考えたキーワードについてその簡単な理由とともに発表させる。 ➡（出し合う交流活動）
 ② 各自が発表したキーワードについて、グループ内で相談し、3～5つに絞らせる。
 予想されるキーワード：「生き物」「機械」「人間」「便利」など
 ③ 各グループで決めたキーワードについて、なぜその語にしたのか、根拠を明確にさせながら、発表させる。 ➡（比べ合う交流活動）

- ① 各自にグループで決めた幾つかのキーワードを用いて、段落の要旨を1～2文でまとめさせ、文章の構成を考えさせる。

- ① 小グループを作らせ、筆者がこの構成にした理由について、各自にそれぞれの考えを発表させる。
 ➡（比べ合う交流活動）
 ② グループ内で、メンバーそれぞれの発表の後に、理由を補足すべき部分や、違う角度から説明すべき部分がないかなどについて、意見交流をさせる。
 ➡（高め合う交流活動）



国語の授業で自分の考えを書くとき、考えの理由が分かるように気をつけて書いていますか

■ 当てはまる ■ どちらかといえば当てはまる ■ どちらかといえば当てはまらない ■ 当てはまらない

H20本校	23.5%	44.8%	25.7%	5.7%
H20全国	15.6%	39.9%	32.7%	11.5%
H21本校	17.1%	44.0%	33.9%	4.7%
H21全国	14.7%	40.3%	33.3%	11.4%
H22本校	25.1%	42.6%	28.5%	3.4%
H22全国	15.9%	42.6%	28.5%	10.0%

日常化した様々な取組 ～生徒～

本校では、ノートづくりや自己評価などについて、教科を超えて指導や様式を統一し、活動の日常化を図っている。これらにより、生徒の学習習慣を確立し、学習活動全般を支える確かな土台づくりを行っている。

○ノートづくりについての指導の工夫

ノートづくりについては、教科の特性を踏まえて記入する部分と、全教科で共通して記入する部分を意識して行うように指導している。共通して記入させる部分については、教員間で共通理解を図り、学校全体で徹底して行っている。毎日全ての授業で行うことから、生徒は高い意識をもって取り組めており、授業内容の理解が深まり、表現力が高まるといった効果が表れている。

▲数学のノートの例

▲国語のノートの例

どの教科もページの先頭に必ず「めあて」を記入させる。

「気づき」を確実にメモさせる。

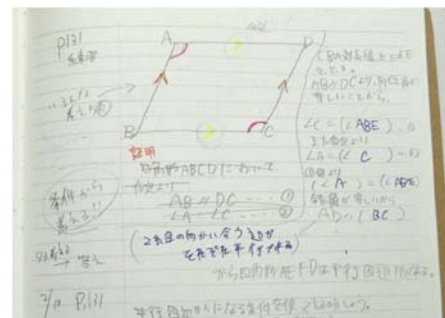
ノートの区切りなどは教科ごとにアドバイスする。

「考え方」が分かるようにまとめさせる。

数学科のノートの取り方

- まず、ノートの左に5cmの幅ぐらいに線を引きます。
- 右に板書を書き、5cmの幅に次の内容を書きます。これが大事です。
 - ① P21 例題というように教科書のページ数
 - ② 先生の言った内容
実際、板書も大事であるが、ぼそっと言った言葉が重要な時もあるぞ。
 - ③ 教わったり、気付いた「考え方」
 - ④ 間違えた原因を書くのも良い。

▲数学科で示したノートの取り方の一部



▲間違いを消さず考え方を書いたノート

数学の授業で問題の解き方や考え方が分かるようにノートに書いていますか

■ 当てはまる ■ どちらかといえば当てはまる ■ どちらかといえば当てはまらない ■ 当てはまらない

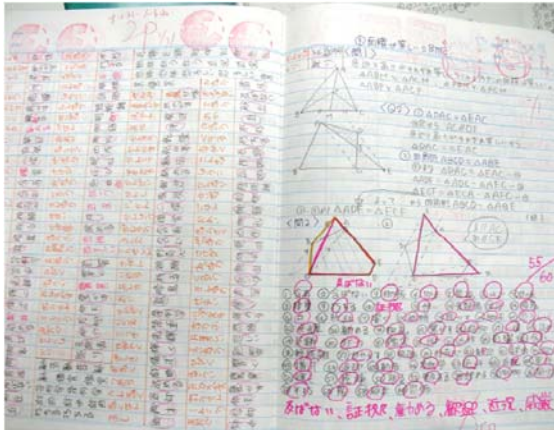
H20本校	59.6%	30.4%	7.4%	2.6%
H20全国	42.3%	34.6%	15.5%	6.9%
H21本校	55.6%	33.5%	5.8%	3.5%
H21全国	41.4%	35.2%	15.9%	6.7%
H22本校	55.7%	30.6%	10.6%	3.0%
H22全国	43.5%	34.7%	14.9%	6.2%

日常化した様々な取組 ～生徒～ (つづき)

○毎日行う自己評価

本校では、全学年で共通の評価表を活用し、1日の学習を振り返る自己評価の取組を行っている。評価表への記入は1時間ごとに行うこととし、帰りのホームルームで全体を通じた反省を記入するようにしている。

生徒は、この自己評価表を見ながらその日の自分の課題を確認し、家庭学習や自主学習の内容を決定している。



▲自己評価に基づいて行った家庭学習

科目・評価		自己評価				具体的な「理解できた内容」「考えが深まった内容」「身に付けたこと」を5項目以上記入すること。
科目	評価	とても	だいたい	少し	全然	
社会科		4	3	2	1	世界の国々の関係がより深く理解することができた。
道徳		4	3	2	1	自分と他人の考えの違いが、話し合いを通して理解することができた。
体育		4	3	2	1	バスケットボールのルールが、実際にプレイすることで理解することができた。
英語		4	3	2	1	英語の発音の練習が、先生と会話を通して理解することができた。
理科		4	3	2	1	光の反射の原理が、実験を通して理解することができた。
音楽		4	3	2	1	和楽器の演奏が、先生と練習を通して理解することができた。
数学		4	3	2	1	1次関数のグラフが、実際に描くことで理解することができた。

本日の授業における気づき (例: 全体の構成の中で書いていない箇所があった。)

昨日と比べて先生の話を集中して聞くことができてきた。明日はポイントをつかみながら話が聞けるようになりたいです。

▲生徒が記入した共通の自己評価表

授業以外の取組

日常化した様々な取組 ～職員～

○授業改善の日常化

教員も、指導法・評価法の見直しや、交流活動についてのアイデア交換などを日常的に行い、日々授業改善を行う意識をもつようにしている。具体的には、授業観察用紙を用意し、授業のない時間などを利用してお互いの授業を見学し、助言し合うなどしている。

右に示す授業観察用紙は、A4版であり、上段が授業者記入欄、下段が観察者記入欄となっている。



▲互見授業の様子

指導法・評価法等 週間観察用紙	
平成21年4月21日6校時 授業場所 (1年2組教室)	
授業者記入	
1 教科・領域 (英語) 授業者 ()	
2 単元・題材 (Lesson 1 Section2)	
3 本時の主題及び評価標準 ・会話文の中から、疑問文の作り方とその応答の仕方を理解する。 ・ペアワークの会話の中で、疑問文を使えるようにする。 ○相手の応答を聞き取るができる。 ○英語で自分の伝えたいことを伝えることができる。	
4 本時のめあて 疑問文の作り方とその応答の仕方を覚え、ペアで会話してみよう。	
5 主な交流活動 ・主題を書き換えるなどして自由に疑問文を作り、ペアで見せ合う。(比べ合う交流活動) ・ペアを作り、会話文の読みを練習する。(高め合う交流活動)	
観察者記入	
1 基礎技術	
① 学習過程がスムーズに流れているか (授業構成)	○ A B C
② めあてとまとめの整合性があるか (めあてとまとめ)	A ① C
③ 生徒が中心で活動する場面が設定されているか (活動)	② B C
④ 生徒への指示や発問、説明が明確であるか (指示・発問)	③ B C
⑤ 板書が構造化されているか (板書)	A ① C
⑥ 机間での指導で個別に指導や発言を行っているか (机間指導)	② B C
⑦ 適切な教材の準備がなされているか (教材準備)	A ① C
2 交流活動の工夫 いかなる疑問文と答える場面でも、疑問文の作り方を意識して取り組んでいるか。	
3 評価方法の妥当性 観察法による会話練習の評価の時間的負担が軽減されているか、丁寧に行っていたのか、素晴らしい。	

▲授業観察用紙

日常化した様々な取組 ～職員～ (つづき)

○校内研修を充実させる資料の工夫

本校では、生徒の実態を踏まえたより効果的な指導法や評価法の確立を目的とし、授業見学と協議会による校内研修を充実させている。校内公開授業は全教員が年2回行い、授業見学の視点や協議会の流れについては、研究主任が職員会議などで事前に提示している。

年度当初に、研究主任が授業見学の基本的な視点を提示し、全教員が視点等に共通理解を図った上で、授業見学に臨めるようにしている。

ここでは、見学の視点の一つとして基本的な学習形態を確認しているが、特に小集団の活動については、前述の交流活動についての研究を推進する意味で、十分な討議を行うようにしている。

授業の様々な場面において、その場面のねらいを踏まえた適切な発問を行うことは非常に重要である。研究授業によっては、発問に重点を置いて見学し、論点を絞った協議会を行うこともある。

	個別指導	一斉指導	小集団指導
長所	① 個人差に対応しやすい。(習熟度、興味など) ② 個に応じた教科や評価が行いやすい。 ③ 生徒と教員の人間関係の構築が容易である。	① 早く、正確に共通の情報を伝え、共通の学力を与えることができる。 ② 多くの異なった経験や意見に触れ、学びを深めさせることが容易になる。 ③ 集団志向を形成させやすくなる。	① 打ち解けて発言できる環境から、意見交流等を容易にさせることができる。 ② 生徒間の人間関係の構築が容易である。 ③ 協業して取り組ませることから、難易度の高い課題を解決しよつとする姿勢を育成できる。 ④ 集団志向を形成させやすくなる。
短所	① 共通の学力を与えることが難しい。 ② 準備、指導等に教師の労力がかかる。	① 個人差に対応にくい。 ② 詰め込みや押しつけの思考になりやすい。	① 習熟度の高い生徒に依存する生徒が出てくる。 ② 学監規律などが十分に確立されていないと、無駄が多くなる。
発問の形式	ねらい	活用場面	
① 拡散的発問 他にもないかな？など考えを広げる発問	学習課題の把握 次の展開への布石	導入場面 次の展開への転換場面	
② 対置的発問 2つに意見が分かれるような発問や、生徒から出た意見の反対意見を求めるような発問	具体的な思考活動の啓発	節目作りの場面 対比等による分析や考えの深化を促す場面	
③ 収束的発問 考えがまとまるような、理解を確認する発問	授業のスムーズな進展 考えをまとめる支援	一つの活動の終わりの授業の終わりの場面	
④ 示唆的発問 ヒントを交えながら、活動や思考の方向性を暗示するような発問	授業(活動や思考)の停滞からの脱出	話し合いや討議の場面	

○校内研修を充実させる協議会の工夫

授業見学後の協議会については、研修のテーマによりグループ討議を交えたり、全体での意見交換を行ったりするなど、進め方の工夫をしている。協議会の流れについても、研究主任から事前に提示し、スムーズに共通理解が図れるように努めている。

<協議会の流れ>

- 1 授業者による研修テーマに沿った自評
- 2 授業者があらかじめ決めた数名の生徒について、観察担当者が参加態度や理解度などの変容について報告
- 3 小グループに分かれての討議
 - ・ 授業で気付いた点について、見学後すぐに付箋に記入し持参
 - ・ 記入内容により、色を使い分け、①～⑥の番号を記入
 - ・ 全員の付箋を1枚の模造紙に掲示し、内容ごとに分類し、カテゴリーの具体的なタイトルを記入
 - ・ カテゴリーごとに自由討議(研究の重点が決まっている場合には、重点的に討議)
 - ・ 各グループの代表者が討議内容を報告
- 4 学校長・教頭あるいは研究主任によるまとめ

<付箋紙の内容>

- ① 主眼の達成
- ② 交流の場面
- ③ 指示・発問
- ④ 板書
- ⑤ 挙手・発言の様子
- ⑥ その他

良かった点

課題点